

わたしの死生観

海外布教研修担当委員長

横井 通決

2013年の調査によると、夫が出産に立ち会った割合は全体の53パーセントだったそうです。僕の場合は、「出産という家族の一大事に、少しでも妻の支えになりたい。新しい命が誕生するその時、自分がどんなことを感じるのかを知りたい」という思いから出産に立ち会うことに決めました。立ち会い出産を先

に経験した友人が、生命誕生の感動と大事を成し遂げた妻への感謝を語ってくれ、きっと自分も同じように感じるのだろうなと思っていました。しかし、生まれたばかりの我が子を見て心に浮かんだのは「あ、僕は死ぬんだ」という全く予想していなかった感情でした。それまで、こんなにはっきりと自分が死ぬというこ

とを意識したことはありませんでした。

日蓮聖人が書かれた文章のなか

人は命の交換をして生きている

に、「まず、臨終の事を習って後に他事を習うべし」という一節があります。「いつかは死んでしまうことを覚悟して生きていかなければなりませんよ」。その意味を実感とともに生まれたての我が子に教えてもらいました。

死についてこんな言葉があります。「人間は2度死ぬ。1度は肉体が減じた時。2度目はみんなに忘れ去られた時だ」。身体がなくなると、存在を忘れ去られた時に「完全な死」が訪れる。この言葉、あなたはどう感じますか。存在が忘れ去られたくらいで、命はなくなってしまうのでしょうか。僕は命がなくなることはないと思っています。

時、自分の命を相手と交換しているのではないのでしょうか。関わることで相手の命を差し上げる。いろんな命が混ざって自分の命ができています。自分の身体が減びて交換することができなくなっても、誰かに差し上げた自分の命はどこかで生き続けます。だから命はなくなることはありません。死んだら終わりではないのです。始まりも終わりも解らない命のリレー。その命はもはや自分のものか誰かのものか。仏さまの法に依って、ただ善く在りたいと願っています。

◇ ◇

横井通決 昭和58年生まれ。愛知県妙勝寺修徒。海外布教研修担当委員長

行くぜ！全日青！

